資料2

第５期中原区区民会議審議テーマ　委員意見まとめ

■①自転車・交通に関する課題（9）

キーワード	内容や課題（要点抜粋）	委員名
自転車交通安全、放置自転車対策 区内の道路状況	自転車の利用環境や、商店街などの駐輪マナーの改善が必要 財政的な問題もあるが、区内の道路上を自転車で通行していると荒れた路面が気になる	石川 委員
自転車・交通ルール	６月１日から自転車交通ルールが厳格化し、青切符も切られるようになる 高齢者を対象に事前講習	板倉 委員
自転車交通安全・駐輪	自転車の交通事故を減らす（マナーの徹底による改善） 自転車の交通環境の改善（走行車線や駐輪場所の明示など）	園部 委員
自転車交通安全	多発する自転車交通事故の防止 自転車交通のマナー、ルールを守った走行、違反者に対する指導や自転車通行箇所の路上表示	田中 委員
自転車交通安全、自転車交通環境、駐輪マナー	「まちをきれいに」アンケートで自転車駐輪マナー等が多く挙げられていること まちの環境変化が著しい今こそ、多くの住民を巻き込んで取り組みたい	塚本 委員
放置自転車についての意識改革等	身体の不自由な人達への配慮の視点からの意識改革（例えば、点字ブロックの上に自転車が駐輪していたりするため）	仲亀 委員
自転車マナーアップ	重大事故の防止、運転ルールを知らない、ルール違反に対する軽視 大人がルールを学ぶ場がないので設ける 地域の行事やＰＴＡ活動で自転車マナーアップ教室（世代間交流も兼ねる）	長尾 委員
自転車環境整備、交通ルール啓発	中原区の特色として自転車移動が楽な地域 自転車利用について危険な場面が多く見られる（安全面から考える） ベビーカーの利用やそのトラブルなど検討（公共交通や商業施設内など） お互いの立場を理解し、思いやりのあるマナーの構築へ	成田 委員
自転車対策	駅前の放置自転車、交通マナーなどの具体的な対策	萩原 委員

■②世代交流・新たな住民と従来からの住民の交流（6）

キーワード・要約	内容や課題（要点抜粋）	委員名
世代間交流	世代間交流・新たな住民と従来からの住民の交流	板倉 委員
転入者の市民参加	転入者の状況を知り、交流、まちづくりに参加してもらえるように	井上 委員
世代間交流（高齢者と子ども）	子どもと高齢者が増加（子育てや高齢者の生きがいづくりなど） ①高齢者から子どもたちへ　知恵や技術の伝授、伝統や歴史文化の伝承、 ②子どもたちから高齢者へ　施設訪問、高齢者との交流、募金・寄付など	梅原 委員
住民意識改革	古くから居住する住民の意識改革の必要性 地域コミュニティの連携を強く意識したテーマを	尾木 委員
世代間交流	老人いこいの家やこども文化センターの活用、相互利用や交流、施設開放、引きこもりがちの高齢者への声掛け・参加など	橋本 委員
交流の場所づくり	障害者、認知症、外国籍市民、子育て世代など相互理解と思いやりを育てるまちへ スポーツ、色、音楽、遊びなどをテーマとした交流、情報発信の一本化、住みづらさをアンケートで調査など	山崎 委員

■③福祉【高齢者・子ども】・健康づくり（5）

キーワード・要約	内容や課題（要点抜粋）	委員名
高齢者・支え合い	①子育て支援、②見守りネットワーク、③まちのルール・マナー	梶川 委員
後期高齢者への支援策	一人暮らしの高齢者（特に後期高齢者）への関わり方や支援、手助けなど 周囲（若い世代なども含めて）が支え合う仕組みづくり	仲亀 委員
健康づくり	全ての世代が参加できる健康な体づくり（行政、企業、商店などと連携、幼児から年配の方まで） （参考）よこはま健康スタンプラリー	中森 委員
高齢者のサポート、介護予防	老人会の高齢化、弱体化対策 老人いこいの家、保健福祉センターなどを利用できない高齢者のサポート 地域でよりあい処を設置、カフェ、お話し場所、体操などしているが、場の確保、運営人員、資金等に課題がある。	松本 委員
ユニバーサルデザインのまちづくり	子どもからお年寄りまでくらしやすいまちづくり、自然に交流が図れる場所づくり	山崎 委員

■④オリンピック・スポーツ（2）

キーワード・要約	内容や課題（要点抜粋）	委員名
等々力競技場　オリンピック	2020年東京五輪に向けて、等々力競技場をオリンピックの選手の練習場としての活用 市の少年スポーツの新興に寄与する視点から	板倉 委員
スポーツ新興	東京五輪に向け、区民の老若男女、誰もが参加できるスポーツイベントなど	仁上 委員

■その他

キーワード・要約	内容や課題（要点抜粋）	委員名
緑の多いまちづくり	商店街は緑が少ないので、まちの緑を増やしたい	石川 委員
ごみの排出マナー、集積所美化	地域コミュニティや子育てにもつなげていく（一つ目のテーマの継続）	反町 委員
地域防災　災害への備え	大地震や火山噴火被害への備え、区民の助け合い、外国籍の方へのサポート、協力や人材育成	中森 委員

※括弧（）内数字は、意見を提出した委員数

参考①

第５期区民会議審議テーマについて

中原区の現状・課題

小杉駅を中心とした地域に新たに転入してきた住民

↓

地域に愛着をもって、長く住み続けてもらいたい

↓

地域コミュニティにおける交流・助け合いを深めよう

第１回区民会議における意見からのテーマ候補

子育て
- 子どもが多い中原区
- 親子交流・居場所づくり
- 世代交流、地域連携

地域コミュニティ
- 転入者が多い
- 地域の一体化
- 住民の交流・相互理解促進
- 外国人や障がい者の参加

交通
- 自転車交通事故防止
- 自転車運転・駐輪マナー
- ラッシュ時の混雑緩和

ごみ
- 排出マナー
- 集積所美化
- ごみ減量
- 再資源化

分野横断
- 魅力発信（歴史文化・商店街・再開発…etc.）
- 皆が輝けるまち
- 地域の支え合い

その他
- 家庭教育
- 環境（緑）
- 防災（避難行動要支援者支援）
- オリンピック・パラリンピック

ふさわしいテーマのイメージ

多様な区民・主体が共に取り組める

誰もが参加しやすい

第１回運営部会における意見

親子・家庭 | 外国人・障がい者 | 学校

新旧住民 | 自治会・町内会 | 商店街・企業

様々な取組との連携、多様な区民が集まる場での展開

目標・成果がイメージしやすい

- 暮らしやすい地域のために、相互理解を深め、互いにまちのルール・マナーを守る。
- 「まちの美化」は全区民が当事者。様々な主体や地域での取組が広げやすく、成果も見えやすい。
- 「よりきれいな地域の実現」が「コミュニティの結束向上」「地域の魅力発信」につながる。
- 意識・知識を深め、取組を通じ、ごみ問題や環境、地域への行動・参加につなぐ。

事前確認による各委員の意見

①自転車（放置自転車）対策・交通安全（マナー・ルール）
②世代交流、住民交流　③福祉（高齢者・子ども）・健康づくり
④オリンピック・スポーツ　その他（緑化推進、地域防災など）

第４回運営部会（6/4）で検討

『　　』

審議テーマ

「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」

新たな審議テーマ〔第5回全体会議で決定〕

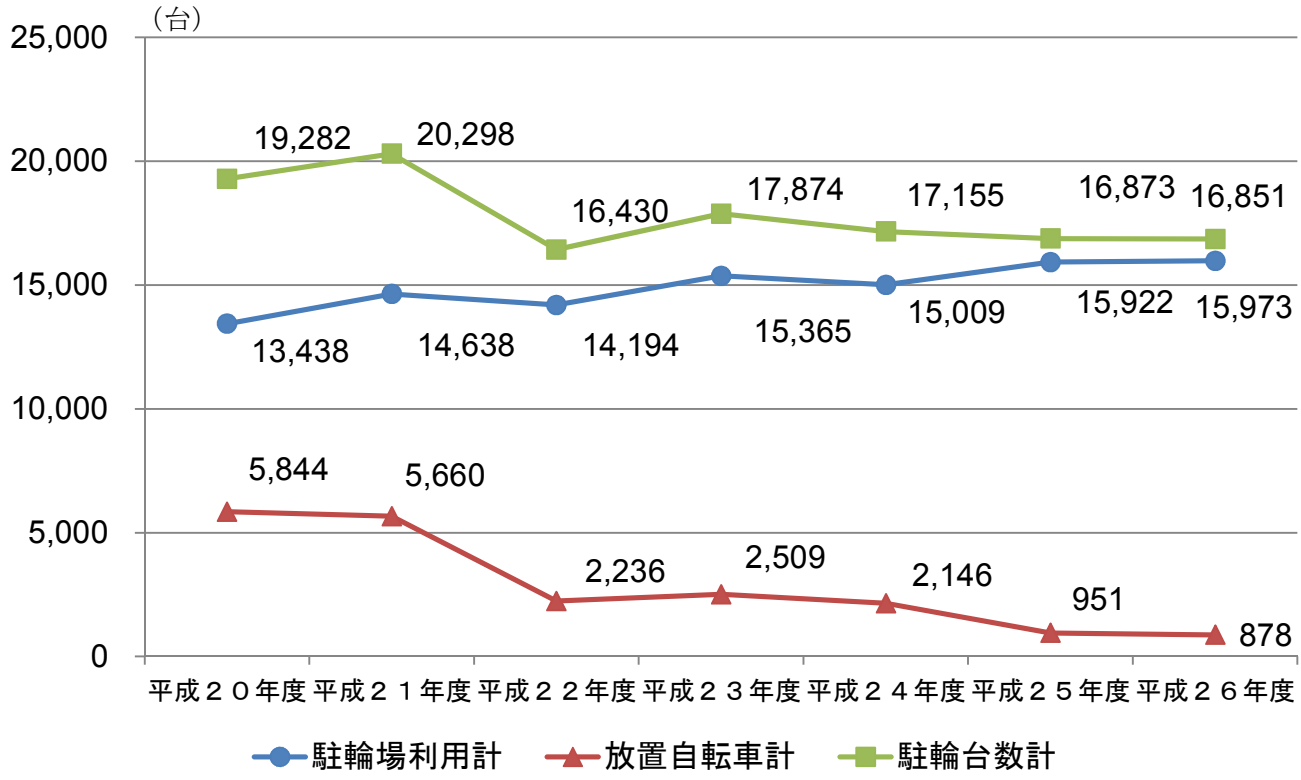
『　　』

参考②

①自転車

区民会議のテーマ選定にあたっての関連データ

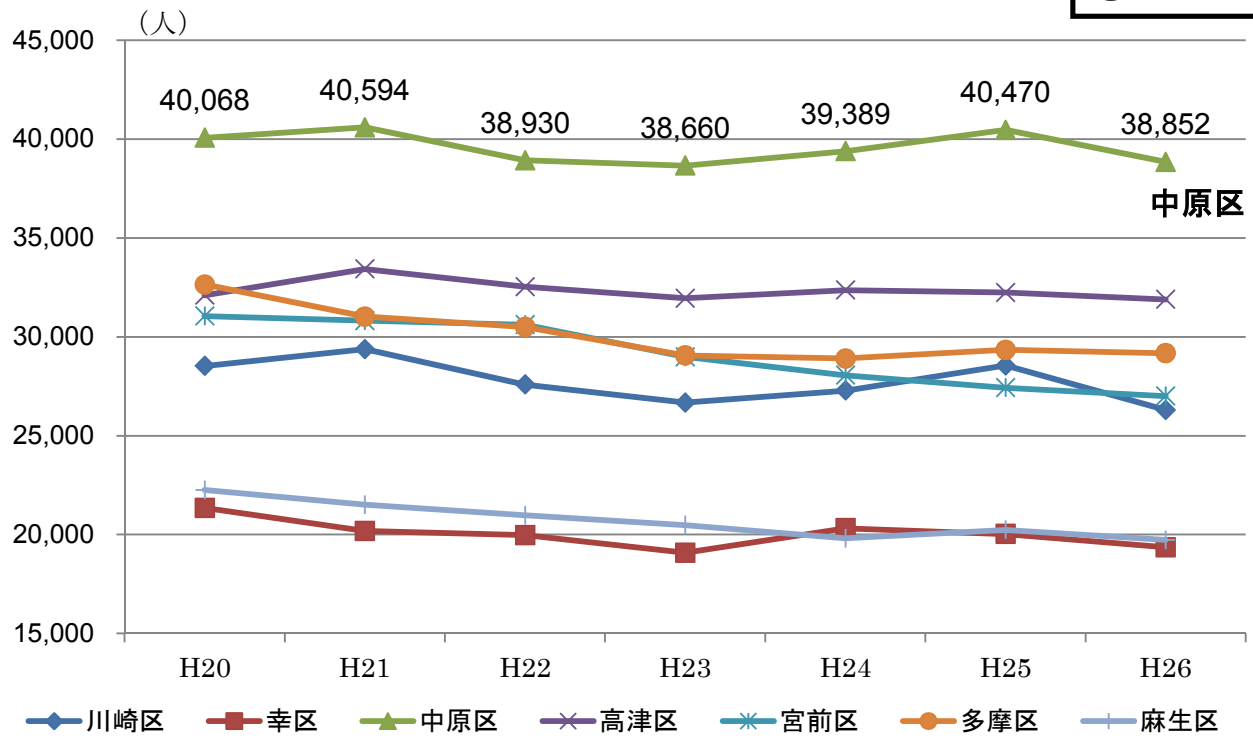
1　放置自転車の推移（平日９時の状況）



〔参考資料〕川崎市内鉄道駅周辺における放置自転車等実態調査（市建設緑政局）

2　区別の人口の社会増減の推移

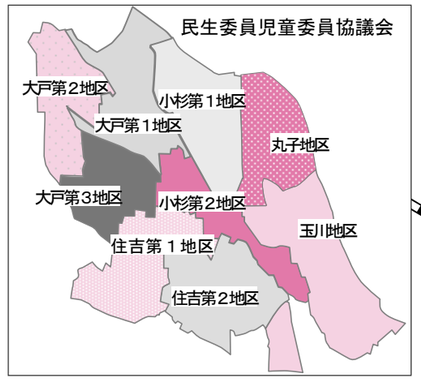
②世代交流

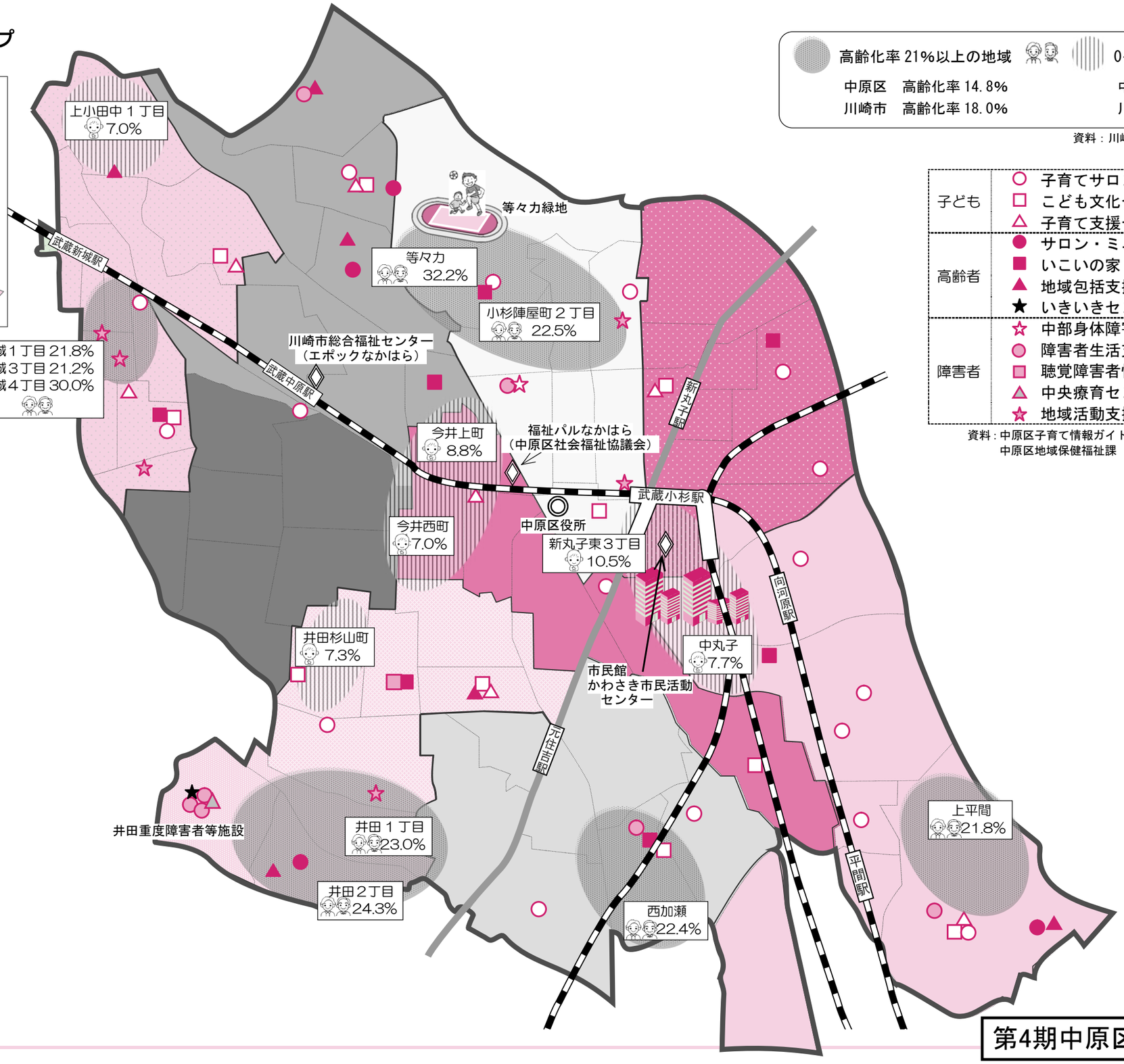


〔参考資料〕川崎市の人口動態（平成20年～26年）（市総合企画局）

③福祉

（３）中原区地域福祉マップ





高齢化率 21%以上の地域　　0～4 歳児比率 7%以上の地域

中原区	高齢化率 14.8%	中原区	0～4 歳児比率 5.1%
川崎市	高齢化率 18.0%	川崎市	0～4 歳児比率 5.0%

資料：川崎市町丁別年齢別人口（平成 25 年６月末）

子ども	○ 子育てサロン等（開催場所）	21 か所
	□ こども文化センター	10 か所
	△ 子育て支援センター	７か所
高齢者	● サロン・ミニデイ	４か所
	■ いこいの家	７か所
	▲ 地域包括支援センター	６か所
	★ いきいきセンター	１か所
障害者	☆ 中部身体障害者福祉会館	１か所
	○ 障害者生活支援センター	７か所
	□ 聴覚障害者情報文化センター	１か所
	△ 中央療育センター	１か所
	☆ 地域活動支援センター	６か所

資料：中原区子育て情報ガイドブック、かわさき生活ガイド（2013 年度）、中原区地域保健福祉課

第4期中原区地域福祉計画抜粋

（中原区地域保健福祉課作成）

報道発表資料抜粋

スポーツのまち かわさき KAWASAKI Enjoy Sports, Enjoy our Hometown

平成２７年３月３０日
報 道 発 表 資 料

ＪＯＣ・川崎市パートナー都市協定締結について

このたび、公益財団法人日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）と川崎市は、オリンピックムーブメントの推進・国際競技力向上に向けて連携・協力体制の充実・強化を図ることを目的としてパートナー都市協定を締結しましたのでお知らせします。

なお、川崎市は東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会決定後にＪＯＣとパートナー都市協定を結んだ、初の都市となります。

１　締結調印式

日　時　　平成２７年３月３０日（月）
　　午前１１時３０分から１２時００分
場　所　　岸記念体育会館１階
　　日本スポーツマンクラブ
　　（東京都渋谷区神南１－１－１）

出席者　　ＪＯＣ会長　竹田恆和（たけだつねかず）
　　川崎市長　　福田紀彦

JOC PARTNER CITY KAWASAKI
公益財団法人日本オリンピック委員会

ＪＯＣパートナーシティロゴデザイン

２　協定内容

（１）川崎市：国際競技力向上のための支援
・ＪＯＣ加盟団体への施設提供

1	川崎市とどろきアリーナ
2	等々力陸上競技場及び補助競技場
3	川崎富士見球技場
4	川崎マリエンビーチバレーコート

（２）ＪＯＣ：スポーツ振興のための各種事業の支援・協力
・川崎市が行うスポーツ教室へのオリンピック選手の派遣など

３　協定に基づく取組

・平成２７年４月１６日「アスナビ」川崎市開催

４　市長コメント

ＪＯＣとのパートナー都市協定を大きな弾みとして、オリンピック・パラリンピックに向けて取り組んでまいります。

川崎市市民・こども局　市民スポーツ室
電　話　０４４－２００－３３１１
川崎市総合企画局　企画調整課
電　話　０４４－２００－２１６４

５月２日日本経済新聞（夕刊）
記事抜粋

日経 夕刊 5

川崎の等々力競技場 無償提供へ

川崎市は、同市が管理する等々力陸上競技場を月1回、障害をもつ陸上のトップアスリートに専用練習場として提供することを決めた。昨年から健常者と障害者が自然に混じり合うダイバーシティー（多様性）のある街づくりを進めており、その一環。自治体が定期的にパラリンピック選手専用に施設を開放する試みは珍しい。

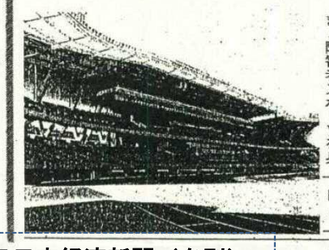
障害持つ選手に練習の場

Ｊリーグ川崎のホームスタジアムとなっている等々力競技場は、全天候型の8レーンのトラックを備え、セイコー・ゴールデングランプリ陸上など国際大会も開かれる一種公認競技場。スポーツイベントがない日は午前9時から午後5時まで、一般の市民に陸上トラックを開放している。

これを5月以降は月1回、土日どちらかの3～4時間を、パラリンピックに出場するようなトップアスリート専用にして、市民は隣接する補助競技場を使ってもらう形にする。第1回は5月17日の午後1時から4時までを無償で提供する。高性能のアスリート用義足開発を手掛けるＸｉｂｏｒｇ（サイボーグ、東京・渋谷）に協力している選手3人が、男子400メートルハードル元日本代表、為末大さんの指導を受ける練習に使う予定だ。

練習風景は誰でも見学できる。同市企画調整課の山本武担当課長は「市民の方にぜひ見ていただき、障害者スポーツを身近なものと思ってもらいたい」と説明する。

障害を持つ陸上アスリートは公共施設を個人利用の形で練習に使っている人が多いが、障害があるとわかると「事故があったら困る」など、使用を断られる施設があるという。今回練習に参加する、片下腿（かたい）切断のカテゴリーで男子100メートルの元日本記録保持者、春田純（ウォーターワークス）は「障害者アスリートは練習環境に成績が左右されることが多いので、今回のような試みはありがたい」と話している。（摂待卓）



陸上パラリンピアンに開放される等々力陸上競技場

４月１７日神奈川新聞（朝刊）
記事抜粋

神奈川 JOCと市 選手就職マッチング事業

日本オリンピック委員会（JOC）によるアスリートの就職支援活動「アスナビ」の企業向け説明会が16日、川崎商工会議所（川崎市川崎区）で開かれた。五輪出場を目指す競泳の押切雄太選手（横浜市出身、日大）ら7選手がプレゼンテーションし、自己PR。トップ選手と企業をつなぐアスナビが県内で開かれるのは初めてで、市内企業を中心に約50社が参加した。（鈴木　昌紹）

夢の五輪へ 思い訴え

県内初開催、説明会に50社

アスナビは、世界を目指し競技に専念できる環境を求める現役選手と、企業PRや社会貢献につなげたい企業とのマッチング事業。2020年東京五輪・パラリンピックを念頭にスポーツ振興や運営支援、バリアフリーのまちづくりなどにつなげる方針を掲げている市がJOCに呼び掛けて開催が実現した。

説明会で、JOCの福井烈理事は「トップアスリートが戦う姿は感動と夢を届ける力がある。日本が誇るべき宝を育てていただきたい」と選手雇用を呼び掛けた。福田紀彦市長も「東京五輪を笑顔で迎えるため、市内企業の皆さまがぜひ一人でも多くのアスリートを五輪に送り出してほしい」とあいさつした。

参加選手は競泳やテコンドー、フェンシング、スケート・ショートトラックなど6競技の7人。昨年の競泳日本選手権立泳ぎ200は2位の押切選手は「器用ではないが、努力を積み重ねることで成果を出してきた。同じ社員として夢に向かって挑戦し、世界の強豪と必死で戦う姿を見て刺激を感じていただけたらと思う」とアピールした。

相模原市出身のショートトラックの齋藤悠選手（神奈川大）はスケート靴を手に競技を説明し、「平昌五輪でのメダル獲得を目指し、常に結果を出すという使命感を持ち、夢を追う姿を見せられるよう頑張りたい」と訴えた。

プレゼンを見守った市内企業の採用担当者は、「スポーツを通じてつくりあげられた人柄がとてもいい。有能で仕事に生かせると思う。条件が合えば採用したい」と前向きだった。

アスナビは2010年にスタートし、就職を希望する選手が競技団体の推薦などを受けて登録、全国各地の説明会で企業側に自己PRをして採用を呼び掛ける。企業側は選手を正社員または契約社員で採用。給与は同年代の社員に準じ、海外遠征など競技活動費の一部か全部を負担する。これまでに47社65人の採用実績がある。

企業の採用担当者に、競技の実演を交えながら自己PRした就職希望の選手たち　川崎商工会議所